

# スギ花粉の飛散量と症状について

さど眼科  
(株)ウェザーニュース

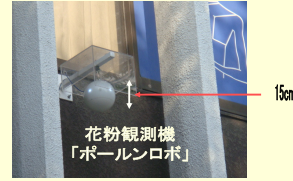
佐渡一成  
吉武正憲

## 【目的】

これまで我々には毎日のスギ花粉飛散量を容易に知る方法はなかったため、飛散量と患者の自覚症状との関連については不明であった。今回我々は、毎日の飛散量を知ることができる花粉観測機を利用する機会を得た(花粉プロジェクト2009 <http://weathernews.com/jp/c/press/2009/090204.html>)ので、同時に患者アンケートを行い、花粉飛散量と自覚症状の関連について検討した結果を報告する。

## 【対象と方法】

- ① 株)ウェザーニュースが開発した花粉観測機「ポールンロボ」をさど眼科(当院)の屋外に設置し、花粉の飛散量を測定し、結果を公開した。



花粉観測機「ポールンロボ」を2階に設置しました。ロボットの「目の色」で花粉の飛散状況がリアルタイムに確認できます。目の色を参考に外出などの行動計画にお役立てください!!

目の色 白→青→黄→赤→紫  
花粉飛散 少ない→ →多い

ウェザーニュース 花粉プロジェクト2009

花粉飛散予測 weathernews

<2月24日>  
2月24日(火) 少ない  
2月25日(水) 午前 少ない  
午後 やや多い

週間予報  
25日(水)~3月2日(月)  
現在のところ、少ない予報ですが、今後の情報にも留意ください

花粉飛散予測 weathernews

<3月2日>  
3月3日(火) 午前 少ない・午後 やや多い

週間予報  
4日(水) 少ない  
5日(木) やや多い  
6日(金) やや多い  
7日(土) やや多い  
8日(日) やや多い  
9日(月) やや多い

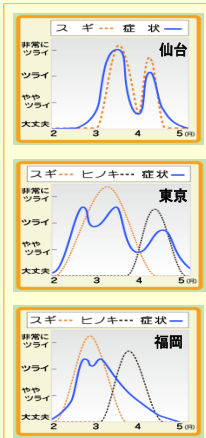


(測定された花粉数/日)

- ② 花粉症で当院を受診した患者にアンケート調査を行った。  
③ ①と②から、飛散量と自覚症状の程度などについて検討した。

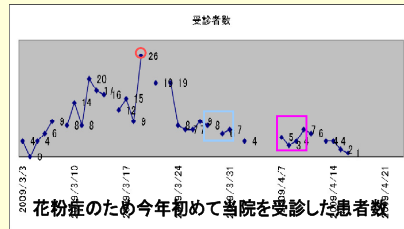
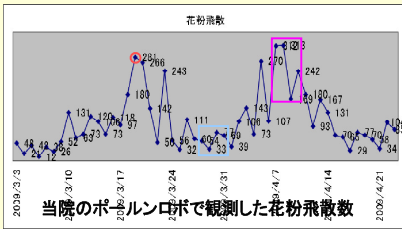
## 【結果】

- ① 2009年仙台の花粉飛散には3月中旬と4月上旬の2つのピークがあった。



- ② 期間中花粉症の症状を訴え、当院を受診したものは、322例(男性111例、女性211例):  
10歳未満:3例、10代:25例、20代:53例、  
30代:59例、40代:69例、50代:61例、  
60代:36例、70歳以上:16例)であった。

- ③ 花粉飛散の第一ピークに患者受診のピークが一致した。



患者様に対するアンケート

当院のウェザーニュース一階の花粉観測機に設置しています。このアンケートは匿名調査となります。個人情報についてご心配な場合はお問い合わせください。お答えの速さをご確認ください。

- 年齢 (10歳未満, 10代, 20代, 30代, 40代, 50代, 60代, 70歳以上)
- 性別 (男性, 女性)
- 居住地 (居住地を記入してください) (例: 東京都中央区) (空欄の場合は、今年初めて、当院を受診したとします)
- 症状、症状が出ている時期 (例: 鼻水)
- 症状が出ている時期と花粉飛散量との関係 (例: 花粉飛散量が多いとき、症状が出やすい) (例: やや多い)
- 症状が出ている時期と花粉飛散量との関係 (例: 花粉飛散量が多いとき、症状が出やすい) (例: やや多い)
- その他の症状 (例: 目のかゆみ、鼻のかゆみ、のどのかゆみ、咳、気管支炎)
- その他 (例: 花粉飛散量が多いとき、症状が出やすい) (例: やや多い)
- その他 (例: 花粉飛散量が多いとき、症状が出やすい) (例: やや多い)
- その他 (例: 花粉飛散量が多いとき、症状が出やすい) (例: やや多い)
- その他 (例: 花粉飛散量が多いとき、症状が出やすい) (例: やや多い)
- その他 (例: 花粉飛散量が多いとき、症状が出やすい) (例: やや多い)

ご協力ありがとうございます。

アンケート用紙

<http://weathernews.jp/event/pollen2009/>

- ④ 一方、今回のアンケート結果では、飛散量が減少した時期の「非常に辛い」が最も比率が高く、「非常に辛い」「辛い」を合わせた比率も飛散量減少期と再増加期で差が認められなかったなど、飛散量と自覚症状の程度については明らかな関連を見出せなかった。



- ⑤ 発症前から何らかの治療を行っていたものは96名(29.8%)であった。  
<点眼60名(18.6%)、点鼻33名(10.2%)、内服63名(19.6%) 重複あり>

## 【考察】

- ① 花粉の飛散量を詳細に知ることは、患者の自覚症状発現(悪化)時期を知るために役立つと思われる。  
② 他の地域の情報から当該地域の飛散予測が可能になれば、発症前投与開始の判断に有用であると思われる。  
③ 一方、今回のアンケートの設定では、自覚症状の程度を正確には反映できなかった可能性が高いと思われるので、次回は自覚症状の回答にVisual Analogue Scale (VAS)を用いる等の工夫をしたいと考えた。

## 【結論】

- ① 毎日のスギ花粉飛散量の推移を知ることから、症状発現(悪化)の予測が可能であると思われる。  
② さらに、調査に工夫を行い飛散量と症状の関連について有用な知見を蓄積し、毎日の花粉飛散量を知ることができるようになった恩恵を、患者のQOL向上につなげていきたい。